

卒業生を迎えて

今回は、令和6年度卒業の三浦玲悠さんに来校して頂き、校長先生に近況報告をしてもらいました。その様子を報告します。

校長先生と三浦さんの対談

校長先生：今日は、不破高校の卒業生である三浦さんにお越しいただきました。お忙しい中、母校のために時間を割いていただき、本当にありがとうございます。

三浦：校長先生、お招きいただきありがとうございます。懐かしい校舎に足を踏み入れることができて、とても嬉しいです。

校長先生：元気そうで何よりです。さて、三浦さんは在学中から、将来について明確なビジョンを持っていたようですね。特に、豊田自動織機への就職を強く希望していたと記憶しています。改めて、その理由を聞かせてもらえますか？

三浦：はい。学生の頃から、漠然と働くのではなく、世界的に有名な企業に就職して、社会に貢献したいという思いがありました。豊田自動織機は、自動車部品だけでなく、産業車両や繊維機械など、幅広い分野で世界トップクラスの技術と実績を持つ企業です。その技術力と社会への貢献度の高さを知り、ここでなら自分の思いを叶えられると感じました。

校長先生：なるほど。その明確な目標意識が素晴らしいですね。今は、具体的にどのようなお仕事をされているのですか？

三浦：現在は、車のエンジンを製造しています。豊田自動織機は、トヨタグループの源流企業として、自動車産業の発展に深く貢献しています。その一員として、日々の仕事を通じて、日本のものづくりを支えているという実感を持ちながら、業務に取り組んでいます。

校長先生：車のエンジンですか。それは日本の基幹産業を支える、非常に重要な仕事ですね。社会に出て数ヶ月が経ち、様々な経験を積んだと思いますが、今、三浦さんが考える「社会人で大切なこと」とは何でしょうか？



三浦： そうですね。まず第一に、あいさつだと感じています。これはコミュニケーションの第一歩であり、円滑な人間関係を築く上で欠かせません。次に、謙虚であること。自分の至らない点に気づき、素直に学ぶ姿勢が、自身の成長に繋がると痛感しています。そして、何よりも学び続けることです。豊田自動織機のような最先端の技術を扱う企業では、常に新しい知識や技術を吸収していくことが、より良い仕事をする上で不可欠だと日々実感しています。



校長先生： 全くその通りですね。どれも、これからの社会で活躍していく上で、非常に大切な心得だと私も思います。では最後に、今後、どのように社会貢献していきたいと考えていますか？

三浦： 自分が携わる製品を通して、社会に貢献していきたいと考えています。そのためにも、常により良い製品を作り続けること。豊田自動織機が培ってきた「モノづくりは人づくり」という精神を受け継ぎ、技術と情熱を持って、社会に役立つ製品を世に送り出すこと。それが、私の今後の目標であり、社会への貢献の形だと思っています。

校長先生： 頼もしい限りですね。不破高校の卒業生が、こうして社会の第一線で活躍し、より良い未来を築こうと努力している姿を見ると、本当に嬉しいです。ところで、三浦さんが不破高校で過ごした日々の中で、一番の思い出は何ですか？

三浦： そうですね…特別なイベントや行事よりも、日々の日常生活ですね。なんでもない一日一日が、今となってはかけがえのない大切な思い出です。友人たちと交わしたたわいもない会話、先生とのやり取り、放課後の教室で見た夕焼け…全てが、今の自分を形作ってくれています。

校長先生： そうですか。日々の積み重ねこそが、人生を豊かにする。まさに、不破高校が大切にしている教育の根幹ですね。今日は本当にありがとうございました、三浦さん。これからも、その熱い志を持って、社会で大いに活躍してくれることを期待しています。

三浦： ありがとうございます！